

[スケート] 日本学生氷上

ルーキー・蓑田1万メートルを制覇 5000メートル道下2位、今野3位

男子スピード部門3位

日本学生氷上競技選手権が1月6日から9日まで、北海道苫小牧市のハイランドスポーツセンター屋外リンクほかで開かれた。スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケーの3部門が行われ、スピード部門で3位と健闘した。

【男子スピード部門】

選手たちにとって最大の目標であった今大会。個人5種目、チーム2種目の順位による得点で大学対抗順位が競われた。活躍が期待されるなか、1万メートルでルーキー・蓑田翔(経営1・白樺学園高)が14分25秒40で優勝を果たした。

「チームに貢献したいと思って滑った。優勝できるとは思っていなかったのが本当にうれしい。今回はたまたまだと思うので、これからは先輩たちについていって、もっと上を目指したい」と語った。

また、5000メートルで道下雅史主将(経営3・白樺学園高)が2位、今野陽太(経営3・白樺学園高)が3位、3人1組でタイムを競うチームパシュートでは道下・今野・蓑田組が3位となり、表彰台に上がった。

主務の金沢将希(経済3・岡谷東高)は「昨年の総合7位を上回る成績を残すことができ、安心しましたが、優勝を狙えたと思うので残念でもあります。世界を舞台に戦う道下の姿を見て、みんなの目標が高まってきていると思うので、これからもチーム全体を盛り上げていきたい」と話した。

(佐山 竜太・経済1)

【ホッケー部門】

1回戦で岡山大に11—0で圧勝した専大は、中大との2回戦に臨むも、1—4で敗れた。

【女子フィギュア部門】

小松円(文4・高木学園女子高)、瀬尾茜(経済1・武蔵野高)、諏訪部潤(文1・東北高)の3人がAクラス女子の部に出場。ショートプログラムの上位24人によるフリーに2人が進出し、諏訪部が20位、瀬尾が24位に終わった。

(松本 かおり・文2)

[スキー] 全日本学生

女子は総合3位 クロスカントリー1.3キロフリースプリント 大森優勝

全日本学生スキー選手権が1月11日から17日まで、新潟県妙高市で行われ、女子は総合3位に入賞、男子は2部で2位となり1部復帰を果たした。

【女子】クロスカントリー1.3キロフリースプリントで大森菜保子(経済3・花輪高)が見事優勝を飾り、下平恵理華(商3・飯山南高)が5位。3×5キロリレーで大森、下平、関谷智美(文4・松代高)組が3位と健闘した。5キロクラシカルでも3位となり、総合3位の原動力となった大森は「プレッシャーを感じていたが、スプリントを制し、安心した。総合優勝を果たせなかったのは残念だが、来年につなげたい」と語った。

アルペンではスーパー大回転で安田かずみ(経営4・歌志内高)が5位に入賞した。「大会前に負傷してしまい、調子が出ず、皆に迷惑をかけてしまった。来年こそ総合優勝を目指してほしい」と語った。また、大回転で小野塚彩那(商2・湯沢高)が7位、回転で安田が7位となった。



▲クロスカントリーのメンバーが健闘(左・下平、右・大森)



▲ともに健闘した男女スキー部員たち(妙高高原で)

男子1部に復帰

【男子】アルペン大回転で水口達史(法3・北海学園札幌高)が1位、忠地俊和(法3・岐阜第一高)が2位、塩田大喬(法1・飯山南高)が3位と表彰台を独占。野上輝樹主将(商4・十日町高)がクロスカントリー10キロクラシカルで2位に入賞するなど活躍した。

野上主将は「アルペン部門の頑張りもあり、1部復帰を果たせて良かった。後輩には1部でも頑張ってもらいたい」と語った。

(新海 城生・経済3)

[卓球] 全日本卓球選手権

江藤・立石組 ベスト8進出

全日本卓球選手権が1月15日から20日まで東京体育館で行われ、男子ダブルスで江藤真伍(経営4・柳川高)・立石イオタ良二(商4・柳川高)組がベスト8入りを果たした。

江藤は「大学生活最後の大会だったので一つでも多く勝ちたかった。先手を取れたことと、皆の応援がこの結果につながった」と話し、立石は「高校から同じ寮で過ごしてきた江藤とだから出せた結果。実力以上のものが出せた」と語った。

また、女子ダブルスで杉本枝穂(文3・青森山田高)・堀部紗代(文3・土佐女子高)組が、混合ダブルスで山岸健弥(法2・新潟産大附高)・小林春菜(文2・新潟青陵高)組がベスト16入りした。

(馬場 雄也・ネット情報1)

ボクシング・川内に川島記念特別功労賞

昨年行われた世界アマチュアボクシング選手権で銅メダルを獲得し、北京オリンピック出場権を得た川内将嗣(商4・龍谷高)に、1月16日、川島記念特別功労賞が贈られた。

同賞は、在学中にオリンピック、アジア大会、ユニバーシアード大会等の国際大会で高位の成績を収めた選手を表彰するもの。

川島記念会会長である日高義博理事長から、賞状とメダルを授与され、「北京での成果を心から期待しています」と激励された川内選手は、「専大の4年間で培った技術とパワーを北京で発揮してきます」と決意を述べた。



[フェンシング] JOCジュニア

男子フルーレ 阪野が優勝

JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会が1月11日から14日まで、茨城県水戸市で行われた。専大からは男女12人が出場し、男子フルーレで阪野弘和(経済2・武生商高)が優勝を果たした。

「優勝できてうれしい。ジュニアとして最後の大会だったので緊張して、大会が終わってホッとしている。試合内容としては決して良くはなかった。運が良かったと思う」と話した。(馬場 雄也・ネット情報1)

◀国際大会出場選手▶

◇スピードスケート部

道下 雅史 ワールドカップ【ハーマル大会】1月25～27日＝ノルウェー、【バセルガデ・ピネ大会】2月2、3日＝イタリア

◇卓球部

杉本 枝穂（文3・青森山田高）サフィール国際オープン（2月18～27日＝スウェーデン）

◇フェンシング部

本間 志織（文3・札幌大谷高）イタリアGP国際大会（2月8～10日＝イタリア）

◇レスリング部

稲葉 泰弘（経営4・霞ヶ浦高）

北村 克哉（商4・日本工大付東京工高）デーブシュルツ国際大会（2月5～13日＝米国）

《記録コーナー》

◇スキー部

▽全日本学生アルペンチャンピオン大会(1月4～10日＝長野県山ノ内町志賀高原)【女子大回転1日目】
木田江里乃(経営2・北海学園札幌高)＝2位【同2日目】高橋万理(経済4・歌志内高)＝4位、小野塚＝5位
【同3日目＝カテゴリーB】安田＝2位

◇スピードスケート部

▽全日本ジュニアスピードスケート選手権(1月10～13日＝青森県八戸市)【3000メートル】蓑田＝2位、
【5000メートル】蓑田＝2位、【スプリント総合】山越竜輔(経済1・孺恋高)＝2位